

錦秋の候 宮崎県防衛協会青年部会宮崎支部会員の皆様には、恙なくお過ごしのことと存じます。また日頃より皆様には当支部活動に当たり特段のご高配を賜り、深甚なる敬意と感謝を申し上げます次第です。

さて10月の自衛隊関連の大きな行事は14日に朝霞駐屯地での中央観閲式でしたが、私は業務出張と重なり残念ながら参観できませんでした。

これは陸海空持ち回りの3年に一度の大イベントですし、特に今年は302保安警務中隊の儀仗服が一新され、是非見たいと考えていただけに忸怩たる思いでTVニュースを眺めたところです。

報道によれば、整列した精強な隊員4000人を前にしての観閲式における安倍首相の訓示は強い決意に充ち溢れ、「全国25万人隊員一人一人の高い使命感と強い責任感によって日本及び国民は守られており、隊員の崇高な覚悟に改めて敬意を表すとともに、自衛隊創立以来60年以上に亘って歯を食いしばり自らの手で国民の信頼を勝ち得てきた努力を称え、全ての隊員が誇りを持って任務を全うできる環境を整えるのは、今を生きる政治家の責任だ」と結ばれました。

もちろんその先には「自衛隊明記」や「緊急事態条項」等を見据えた憲法改正への道筋を明瞭に読み取ることができ、自衛隊違憲論争によりやく終止符を打つ日もそう遠くはなさそうです。

沖縄県知事選や那覇市長選では大敗を喫した自民党でしたが、安倍首相の訪中やインド首相来日など、得意の「地球儀を俯瞰する外交」でポイントを稼ぎ、憲法改正国会発議の後に必ず実施される「国民投票」に向けての準備も直ちに着手せねばなりません。

支部会員の皆様にはまた改めてご案内致しますので、そのときはお力添え賜りますよう伏してお願い申し上げます次第です。

さて今月も小川先生からのメルマガから一部転載を致しますので何卒ご一読下さい。

「小銃持ちゾロゾロ」だって

北海道を講演旅行していて、次のような記事に出会いました。色んな思いがよぎりましたので、今回はそれを書きます。

陸自隊員21人、小銃持ちゾロゾロ 札幌市民交流プラザ 催し準備、エスカレーターで4階へ

「札幌市中央区の札幌市民交流プラザで19日、陸上自衛隊第5旅団第27普通科連隊(釧路管内釧路町)の隊員21人が小銃を所持してエスカレーターに乗り、目撃した市民から同施設や陸自北部方面総監部(札幌)に苦情があったことが22日、分かった。総監部広報室は『市民を驚かせてしまい申し訳ない。次回は通用口を利用する』と陳謝した。

広報室によると、隊員は20日に行われた『北部方面隊創隊66周年記念行事音楽まつり』のリハーサルで、19日午後1時ごろ到着。通用口から機材搬入用のエレベーターで会場の『札幌文化芸術劇場』に入る予定だったが、場所が分からず、一般客用の入り口から小銃を持ったまま入館し、劇場入り口がある4階までエスカレーターで移動した。小銃は長さ92センチ、重さ3・5キロで実弾は装填(そうてん)していなかった。

同施設は22日、総監部に対し『銃を持って公共施設内を歩くことは常識ではあり得ない』と嚴重注意した」(10月23日付北海道新聞)

まず、この記事は自衛隊に好感を持っていないことが明らかです。見出しの「ゾロゾロ」はもとより、どんな「催し準備」のために小銃が必要だったのか、自衛隊員はどんな服装や態度でエスカレーターに乗ったのか、が書かれていません。これでは、迷彩服を着た自衛隊が何らかの戦闘任務のために公共施設内に現れたような印象すら与えてしまいかねません。

記事にあるように、催しは音楽まつりですから、迷彩服などではなく、きちんとした制服制帽姿だったと思います。多分、ドリルのような演目のために小銃が必要だったのだと思います。小銃も、「下げ筒」の状態ですら周りに迷惑がかからない形だったでしょう。むき出しではなく、ケースに入れていたかもしれません。

そのところを書いてあれば、小銃持参でエスカレーターに乗ったことを批判するにしても客観的な記事になるのですが、やっぱり「ドーシン(北海道新聞)」は自衛隊が嫌いなんだね(笑)。

ちなみに、私が16歳で、陸上自衛隊生徒の2年生だった1962年秋、自衛隊記念日の中央パレードで行進するために横須賀の生徒教育隊(現・高等工科学校)から神宮外苑絵画館前に向かったときは、横須賀線・地下鉄銀座線の乗り継ぎでしたが、M1ライフル、銃剣、弾帯に半長靴(ブーツ)姿で、制服制帽を着けていなければ、式典に出るとは誰も思わなかったかもしれません。

しかも、満員電車で一般の乗客と混乗したわけですが、60年安保の2年後というのに、罵声が浴びせられることもありませんでした。いや、こちらが500人も集団だったから、声も出なかったのかもしれませんが。「みんなで渡ればこわくない」(笑)。

北海道のケースでは、自衛隊側も誤解が生じないようにTPOについて胸に刻むと思いますので、国民の皆さんのご指導をよろしくお願いいたします。以上

今年も残すところあと2ヶ月となり何となく気ぜわしくなりましたが、支部会員の皆様には呉々も健康管理に留意され、慌ただしい年末を元気に乗り切ってください。平成30年11月1日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小倉和彦